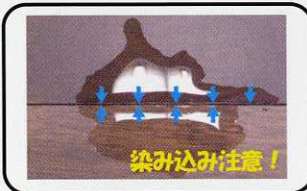
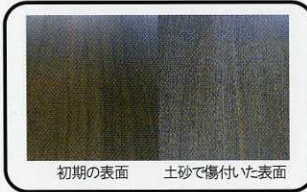


フローリングの床をいつまでも美しい状態に保つためのお手入れ方法についてご紹介します。日常のお手入れをきちんとすることで傷や汚れからフローリングを守る事ができますが、正しい作業を行わなければ、せっかくのフローリングを傷めてしまう原因になります。フローリングの特性をきちんと理解し、正しいお手入れ方法・手順で作業を行ってください。

■フローリングの特性



1 フローリングにとって水分は大敵です
 フローリングの表面に塗装が施された部分は、ある程度の水分が接触しても影響の少ないように造られていますが、目地の部分に大量の水分が長時間接触すると、染みこんでフクレなどの悪影響が生じる可能性もあります。また、水の影響により床材表面が干割れを起こす可能性もあります。



2 土砂の影響により傷む事があります
 土砂(土埃など)は放っておくと、スリッパの底などに付着し、紙ヤスリと同じような作用をします。いつまでも美しい状態を保つためには、土砂が大敵ですので、日常のお手入れで確実に取り除きましょう。
ヒント! 土砂で付いた擦り傷は、ワックスで目立たなくする事ができます。

■日常のお手入れ



1 フローリング表面のゴミ・ホコリを取り除きます
 掃除機や乾式フロアワイパーなどを使用してゴミやホコリを取ります。化学雑巾や化学モップなどの使用は避けてください。



2 固く絞った雑巾などで床面の湿り拭きを行い、汚れを取り除きます
 掃除機などで取りきれなかった土埃などや汚れを、水で湿らせた雑巾などで拭き上げます。ゴシゴシ擦らず一定方向に拭くのがコツです。
ご注意! 床を濡らし過ぎないようにして下さい



3 湿り拭きでは取れない汚れがある場合には、中性洗剤を用いて取り除きます
 人の皮脂や調理による油煙などにより付着した汚れは、水では落とすことが出来ませんので、中性洗剤を使用します。週に1~2度は、全面を行うとスッキリした状態を保てます。
ご注意! 洗剤を多量に使用すると床材のフクレの原因となる事があります。



4 洗剤を使用した場合には仕上げの湿り拭きを行います。
 せっかくきれいにしても、洗剤成分が残っていると汚れが付くようになってしまいます。洗剤はなるべく早く丁寧に拭き取ってください。



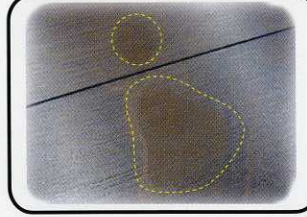
5 週に1度はスリッパの底の拭き掃除を...
 床面をいくらきれいにしても、スリッパの底が汚れていると、床面の汚れや傷の付着の原因になります。床の中性洗剤拭きに合わせて、スリッパの底面に付いた汚れや土埃などを取り除きます。



a 水拭きと湿り拭きの違い...
 一般に水拭きと言われる作業は、床を濡らして汚れを取り除くというイメージがあり、このような作業はフローリングにとって悪影響を引き起こす可能性があります。特に、目地周辺を濡らすような作業を行うと、フクレやシミの原因になることがあります。また、床を濡らす頻度が高いと、床材表面に干割れが生じてしまう可能性もあります。ワックスを塗布することで、この影響を少なくすることができます。



フローリングに対して影響の少ない水拭きの仕方を一般的な水拭きと区別するため、お手入れ上では湿り拭きと言われる作業・床の表面がわずかに湿る程度の水分で汚れを取る作業を行う必要があります。



b 中性洗剤の必要な床面状況
 左の写真の様に、水拭きした際に浮き出てくる(濡れた様に見える)油汚れが多くなってきた時や、水のハジキが極端に激しくなった時に、中性洗剤を使用すると効果的です。
アルカリ性の洗剤は、床面や樹脂ワックスに悪影響を及ぼす恐れがあるため、使用を避けてください。

ご注意! 床を濡らす頻度が高いと床材表面が干割れ(クラック)を起こす恐れがあります。

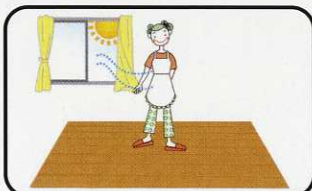
インデックス・ガイド

必要に応じて以下の資料をご参照下さい。

- ワックスを塗りたい ▶▶▶ **ワックス導入編** をご覧ください。
- ワックスのツヤが無くなってきた ▶▶▶ **ワックス中間お手入れ編** をご覧ください。
- ワックスを塗り直したい ▶▶▶ **ワックス塗り替え編** をご覧ください。

フローリングの床をいつまでも美しい状態に保つためのお手入れ方法についてご紹介します。日常のお手入れをきちんとすることで傷や汚れからフローリングを守る事ができますが、もし何らかの理由でワックスがけの必要が生じた場合には、以下の手順で塗布を行ってください。このタイプの床材は、目地部分に洗剤類が多量に染み込むとフクレが生じる可能性もあるので、必要以上に濡らさないよう、湿り拭きの要領で作業を行ってください。また、一般のフローリング専用ワックスを使用した場合、歩行頻度の激しい場所や水廻りなどでは水白化やワックスのハガレを生じる可能性もあるため、**耐水性に優れた高密着タイプのリンレイハイテクフローリングコート**をご使用ください。

■ワックスの塗り方



1 ワックスがけは天気の良い日に

室温が5℃以下の日や雨天など湿度の高い日にはワックスの乾きが悪く、仕上がりに影響しますので、できるだけ避けるようにしてください。



2 フローリング表面のゴミ・ホコリを取り除きます。

掃除機や乾式フロアワイパーなどを使用してゴミやホコリを取ります。化学雑巾や化学モップなどは使用を避けてください。



3 汚れを落とします。

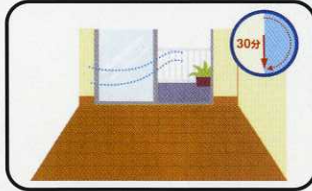
ウエット式フロアワイパーを使用するか、中性洗剤を水で希釈して、固く絞った雑巾などで床面の汚れを取り除きます。こびりついた汚れはスポンジタワシなどでこすり落とします。目地に洗剤が溜まらないように注意し、溜まった場合には直ちに拭き取ってください。

ご注意！ 床面と洗剤類との接触時間は10分以内になるよう手早く作業を行ってください。



4 水拭きをします。

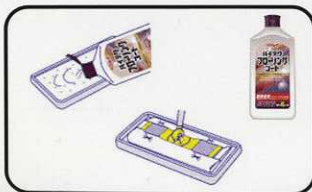
きれいに水洗いした雑巾を固く絞って、水拭きを2回行います。洗剤は乾かないうちに拭き取ってください。また、床面や溝に洗剤が残らないようにします。



5 床を十分に乾燥させます。

水分が残っているとワックスの仕上がりに影響しますので、約30分間ほど乾燥させます。扇風機を使用するのも効果的です。冬期は、暖房を25℃程度に設定すると、乾きを早くすることが出来ます。

※エアコンの除湿やドライ設定は気温が低下し乾きが遅くなるので使用は避けます。



6 ワックスをモップに染み込ませます。

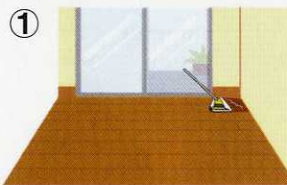
ワックスワイパー専用のトレーなどに塗布面積分のワックスを入れ、ワックスが垂れない程度にワックスシートなどに含ませます。

ご注意！ ワックスは床に直接まかないでください

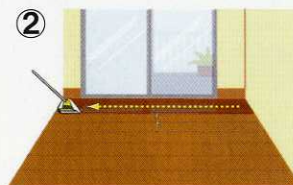


7 ワックスを塗布します。

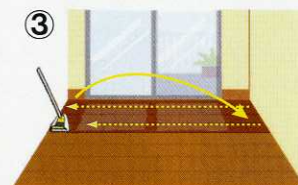
部屋の奥から壁に対して平行に床の木目や模様、目地に沿って薄くムラなく塗ります。途中で止めたり、折り返したりすると仕上がりが悪くなります。また、床の継ぎ目にワックスが溜まらない様にしてください。ゴシゴシする様な塗り方は、仕上がりを悪くします。



① 部屋の奥の壁際から1cmくらい離して、ワックスワイパーを置き、そこから目地の方向に沿って塗り始めます。



② 反対側の壁際まで、ゆっくりと途中で止めたりせずにワックスワイパーを引いてゆき、ワックスを塗ります。



③ 一列目が塗り終わったら、もう一度元の場所に戻り、ワックスを新たに含ませて同様の操作を繰り返していきます。

ポイント！ ワックスは塗り残しやカスレがないように注意して塗ってください。また、塗り残しなどに気付いても、ワックスが乾き始めている場合には手直しを行わないでください。



8 ワックスを十分に乾燥させます。

ワックスが乾くまでは歩いたり、ワイパーで擦ったりしないでください。乾燥には約30分間ほどかかります。扇風機を使用するのも効果的です。扇風機を使用する場合には、床に直接風が当たらない様に風の向きを調整してください。冬期は、暖房を25℃程度に設定すると、乾きを早くすることが出来ます。※エアコンの除湿やドライ設定は気温が低下し乾きが遅くなるので使用は避けます。

ご注意！ 水拭きをする際は、ワックスが乾燥してから24時間以上時間をあけてください。

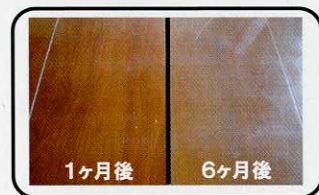
インデックス・ガイド

必要に応じて以下の資料をご参照下さい。

- ワックス後の日常のお手入れ ▶▶▶ **日常のお手入れ編** をご覧ください。
- ワックスのツヤが無くなってきた ▶▶▶ **ワックス中間お手入れ編** をご覧ください。
- ワックスを塗り直したい ▶▶▶ **ワックス塗り替え編** をご覧ください。

フローリングの床にワックスを塗布した場合のお手入れ方法についてご紹介します。ワックスは爪のマニキュアと同じようにフローリングの表面を保護しつつツヤを出していますが、歩行などにより徐々にツヤが低下してしまいます。ワックスを再塗布することで再び綺麗な状態にすることは可能ですが、適切な頻度でワックスを塗布しなければ様々な問題が発生してしまいます。

■ワックスの性質について



1 再塗布の目安は概ね3～6ヶ月毎です。
左の写真はワックスを塗布し1ヶ月(左)、6ヶ月生活した状態(右)を記録したものです。6ヶ月経った状態では、ツヤがなくてもワックスはまだ残っています。あまり頻回に再塗布するとワックスが厚くなり過ぎて、塗り替えの際の除去が大変になってしまいます。



2 厚い膜になり過ぎるともろくなります。
左の写真は、2年間毎月ワックスを再塗布し続けた状態を記録したものです。ワックスが厚くなり過ぎてもろくなり、部分的にワックスが剥がれたり、ツヤが極端に無くなった状態です。こうなるといくらワックスを塗ってもツヤが出ない状態になってしまいます。

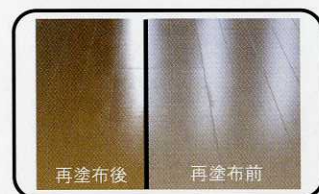


3 汚れを取らずにワックスを塗ると、不具合が発生します。
左の写真は、水拭きをただでワックスを再塗布した結果、ワックスが粉になって取れてしまっ、下のワックス層が露出した状態です。原因はフローリングの表面に残っていた油脂分がワックスの密着を邪魔したために発生したものです。



4 長時間水分と接触すると、白濁し元に戻らないことがあります。
左の写真は、水がワックスの表面にこぼれて2時間経過した状態です。このような状態は、乾燥しても元に戻らず、白化したままになることがあります。このような状態になってしまうと塗り直ししなければなりませんので、水のこぼれているのを見つけたら早めに拭き取りましょう。

■ワックスの再塗布



1 再塗布の時期かを判断します。
左の写真はワックスを再塗布する前後の状態を記録したものです。壁際など人の歩かない陽の当たる場所の状態と、部屋の中央部分と比べて時に、ツヤが極端に落ちているだけでなく、色味も違って見え、ワックスを塗布してから3ヶ月以上経過しているようなら、そろそろ再塗布の時期です。



2 ワックスがけは天気の良い日に
室温が5℃以下の日や雨天など湿度の高い日にはワックスの乾きが悪く、仕上がりに影響しますので、できるだけ避けるようにしてください。



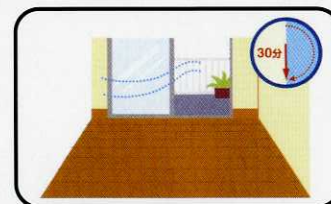
3 フローリング表面のゴミ・ホコリを取り除きます。
掃除機や乾式フロアワイパーなどを使用してゴミやホコリを取り除きます。化学雑巾や化学モップなどは使用を避けてください。



4 床面全体の汚れを落とします。
ワックスの仕上がりを良くし、きちんと性能を発揮させるためには、皮脂などの油汚れや、床にこびり付いた汚れを確実に取り除かなければなりません。中性洗剤を水で希釈して、スポンジタワシなどで丁寧にこすり落とします。
ご注意！ 洗浄の際、強く擦ると床面を傷付ける恐れがあります。



5 水拭きをします。
きれいに水洗いした雑巾を固く絞って、水拭きを2回行います。洗剤は乾かないうちに拭き取ってください。また、床面や溝に洗剤が残らないようにします。
ご注意！ 床面と水・洗剤類との接触時間は10分以内になるよう早く作業を行ってください。



6 床を十分に乾燥させます。
水分が残っているとワックスの仕上がりに影響しますので、約30分ほど乾燥させます。扇風機を使用するのも効果的です。冬期は、暖房を25℃程度に設定すると、乾きを早くすることが出来ます。

これ以降の手順はワックス導入編⑥以降を参照下さい。

ご注意！ 床面の汚れが十分に落ちていないと、仕上がりが不良や汚れの抱き込みの原因になります。

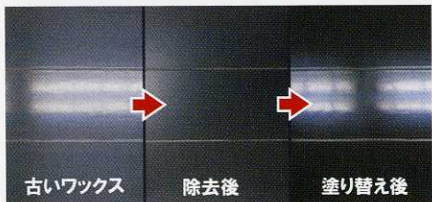
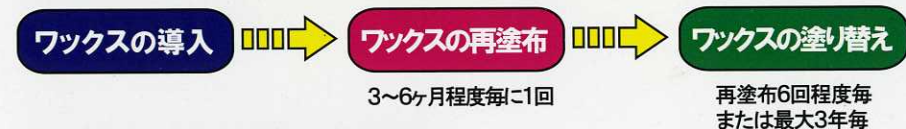
インデックス・ガイド 必要に応じて以下の資料をご参照下さい。

ワックス後の日常のお手入れ **▶▶▶ 日常のお手入れ編** をご覧ください。

ワックスを塗り直したい **▶▶▶ ワックス塗り替え編** をご覧ください。

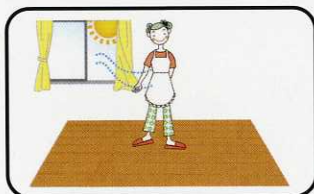
フローリングの床にワックスを塗布して再塗布を重ねた場合、ある程度期間が経過しますとツヤの低下が早くなるだけでなく、紫外線や気温の変動など様々な影響により劣化してしまいます。そのまま再塗布を続けると、部分的にワックスが取れて大きなへこみが出来たり、深い傷が目立ちやすくなる、何度再塗布を繰り返してもきれいに仕上がらないなどの問題が発生してしまいます。このような状況になってしまう前に、一旦古いワックスを除去してワックスの塗り替えをする事をお勧めします。

■ワックスによるお手入れの流れ



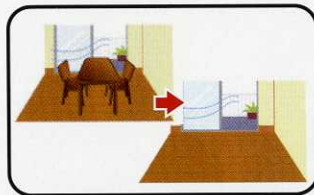
左の写真は、古くなったワックスを除去してワックスを塗り替えた時の床の状態の変化を記録したものです。中間手入れの時のようなワックスの再塗布と違い深い傷などもなくなり、スッキリとしたきれいな状態に戻すことが出来ます。
※床に付いた深い傷は消すことが出来ません。

■ワックスの塗り替え方



1 ワックスの塗り替えは時間に余裕のある天気の良い日に

塗り替えには時間がかかります。午前中から作業を始められる日で、晴れて気温が10℃以上の日を選んで行うようにします。



2 移動できる家具は別の部屋に移動します

普段移動しない大きな家具や冷蔵庫・テレビ・オーディオなどの電化製品を除き、テーブルやイス、ゴミ箱や置き敷きのカーペットなど、簡単に移動できるものは、作業を行う部屋から移動させます。



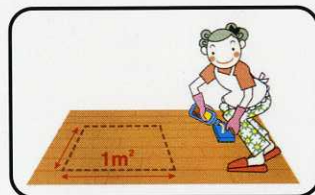
3 移動できない家具などや扉、壁の下側を養生します

養生は、必ず行わなければならない事ではありませんが作業中に汚してしまわないようにあらかじめ養生シート(塗装用など)で保護しておく、作業がスムーズに行えます。白木の部分は必ず養生を確実に行ってください。
※養生シートはホームセンターなどで購入できます。



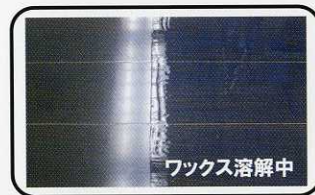
4 フローリング表面のゴミ・ホコリを取り除きます。

掃除機や乾式フロアワイパーなどを使用してゴミやホコリを取ります。化学雑巾や化学モップなどは使用を避けてください。



5 1㎡程度の面積毎にワックスの除去を行います

スポンジにフローリング用ワックス専用の除去剤(オール床クリーナー原液使用)を含ませて1㎡程度の面積にたっぷり塗ります。広い面積を一度に作業すると、うまく除去出来ません。



6 ワックスを溶解するため1~2分間放置します

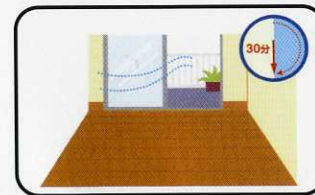
古いワックスを確実に除去するため、本来は完全に溶解して白く浮いてくるまで5分間程度待たなければなりませんがこのタイプの床は、洗剤類の染み込みによるフクレの可能性があるので、ある程度白く浮いたらスポンジタワシでこすりながら除去します。白く浮いたら濡れ雑巾で拭き取ります。一度で取れない場合にはこれを繰り返し行ってください。

ご注意！ ワックス溶解中は非常に滑りやすくなります。作業中以外は退室してください。



7 水拭きをします。

きれいに水洗いした雑巾を固く絞って、水拭きを2回行います。洗剤は乾かないうちに拭き取ってください。また、床面や溝に洗剤が残らないようにします。
ご注意！ 床面と洗剤類との接触時間は5分以内になるよう手早く作業を行ってください。



8 床を十分に乾燥させます。

水分が残っているとワックスの仕上がりに影響しますので、約30分間ほど乾燥させます。扇風機を使用するのも効果的です。冬期は、暖房を25℃程度に設定すると、乾きを早くすることが出来ます。

これ以降の手順はワックス導入編⑥以降を参照下さい。

インデックス・ガイド

必要に応じて以下の資料をご参照下さい。

- ワックスの塗布作業 ▶▶▶ **ワックス導入編** をご覧ください。
- ワックス後の日常のお手入れ ▶▶▶ **日常のお手入れ編** をご覧ください。
- ワックスのツヤが無くなってきた ▶▶▶ **ワックス中間お手入れ編** をご覧ください。